

# 光市医師会報



1972. 5月

No. 14

光市医師会

昭和47年5月31日

## 内 容

1. 地域医療について私の考へ方 会長林孝文
2. 医師会月間行事
3. 医師会報編集委員の編成
4. 生保保険業務の電算化導入
5. 山口県昭和47年度日本脳炎予防対策
6. 国保レポートの受け付け
7. 同好会
8. 微量物質の分析 ガスクロマトグラフ
9. 6月の学会
10. Editorial 電解質代謝研究の進歩
11. 随筆 生まれる方が生き 下下生

1. 「地域医療」について私の考え方

医師会長 林 孝之

今日の医療形態は、今までのような医師が単に  
疾病の治療にのみ専心してゐた姿勢から変わ  
つて行くべき運命を帯びてゐると思ふ。にも  
か、わらぬこの封建的医療形態に固執してゐ  
る姿が少くない。医師会の在り方においても  
医師会が医師のみのためのものであるという  
形態と結けてゐなくなれば患者との人間関係は  
加速度的に崩壊して行く。医師会はあくまで  
学術的団体であつて差別的なものであつては  
ならない。今や医療は集団医療とならざるを  
得ない運命を帯びてゐる。換言するならば、診  
察室の中で患者を診察し利益を求めるといふ  
過去の形態では遂には医師と患者との心の結  
びつきは切れ失つてしまふ。医師が診察室を出て  
地域住民の中にはいつてゐなければならな  
い。此の場合に医師同士が競合する形では望  
ましくもない。医師会とつうような集団の形で  
住民の中へ入つて行くのでなければならぬ。

こゝが「地域医療」という考え方である。今まで「地社活」—「地域社会保健活動」—という形で推しすすめてきた医師会活動は「地域医療活動」という形で行なわれなければならぬ。—こゝが今日的な課題なのである。しかも地域からの求められての活動ではなく、医師会が主体性をもって積極的に地域社会に入っていくものであらねばならぬ。現在光市医師会がもっている地域社会との医学的接点と列挙するならば次のようなものがある。

- (1) 学校、幼稚園、保育園における保健活動
- (2) 予防接種 (3) 牛島診療 (4) 老人健康所
- (5) 育児相談 (6) 日曜当直 (7) 仁生管理医としての保健活動
- (8) 救急医療体制 (9) 市民健康相談 (10) 海浜救護所
- (11) その他

これらの諸活動を推しすすめていく具体的な在り方はあくまで上述の「地域医療活動」の在り方は、基本姿勢をふまえたものであらねばならぬ。人は全て自からの幸せを求める権利

がある。 医師であることの幸せは何か、病める人々の幸せにつながるもの、はたしてそれが自らの幸せだと認められたとしてもあくまで見世かけの幸せであつて医師たる者の真の幸せではないのである。 医師は常に、かのヒポクラテスの心を心として自からの在るべき姿を探求しつづけていかなければならぬ。 それが医師と患者との人間関係を保つていくことのできる唯一の道であると思う。

## る 医師会月間行事

5.11.(木) 定例理事会

於武田栄品学生会館

1. 県医互助会支部長会、  
県医代議員会議報告
2. 県医師国保組合会報告
3. 光市医師会の活動方針に基く具件的事項の検討
4. 光市医師会報編集委員の編成
5. その他報告事項

5. 20(土)	市役所との 協議会	於市役所会議室
		1. (市側) 河村市民部長, 内 山市民健康課長 (医師会) 林, 福本, 松村, 渡 辺, 丸岩, 河内山, 大野.
		2. 協議事項 牛島出張診療の問題
5. 23(火)	研究会	於医師会館
		1. 最近を験しに隣市の症 例 富憲外科 富憲哲 2. C. 17. 1. にする小学児童 の健康調査成績
5. 23(火)	月例会	於医師会館
		市側より民生部長, 市民健 康課長, (牛島) 紅王組合長出 席 牛島の美術市民の要 望に ついて 説明あり, 従来 通りの出張診療に ついて

懇請あり、各医師会員と是非方法等について交見

### 3. 医師会報編集委員の編成

医師会報の多角的充実に因るため5月11日の理事会において次の諸氏に委嘱することか決定した。

現広報担当部員

田中信彦氏

高惠哲氏

中村琢美氏

理事例

渡辺貞男氏

伊藤慶二氏

大野宗二氏

### 4. 生保医療保険業務の電算化

6月1日より生保医療保険業務の電算化に伴い、各医療機関において留意すべき点は下記の通りである。

1. 病名欄は医療機関で記入(北保レセプトと同様に併発病名も此の欄に記入)併発病名が多くて記入できない時は備考欄に記入
2. 要否意見書の県への提出期日が毎月10日までとなつたので各医療機関よりの市協社事務所への提出は毎月8日、及び20日まで。

5 山口県昭和47年度  
日本脳炎予防対策

1. 主旨

1. みんなで力を合わせて蚊の発生根絶に努めましょう
2. みんなが進んで日本脳炎の予防接種を受けましょう
3. みんなが身のけの疲労防止に努めよう。

2. 強調期間および強調事項

1. 強調期間

昭和47年5月1日より9月30日まで

## 2. 強調事項

1. 予防接種の完全実施
2. 蚊の発生根絶対策の実施
3. 生活環境の整備
4. 身体への疲労防止

## 3. 関係機関、団体の連携および県民の協力

県、市町村、市町村教育委員会、学校、郡市医師会、農協組合、地区衛生組合、事業所、団体が一体となり県民の理解と協力により本対策を強力に推進する。

## 4. 予防接種の完全実施

1. 実施機関 市町村
2. 実施期間 5月～7月(6)株まで完了するよう努力)
3. 内容 (1) 実施対象は全県民、特に50才以上の高齢者を重点対象とする、但し65才未満の者については、地域の流行状況により必要と認められる場合には、実施可とする。  
(2) 予防接種は予防接種実施規則(昭和



33年9月厚生省令(大27号)及び予防接種の実施方法にっ、て(昭和34年1月21日衛研32号)に準ずること。

特に幼児に對する予防接種には慎重に予診、内診、接種量等に注意すること。

### (3) 接種方法

初回免疫---3才以上の者にっ、ては、通常1mlを7-14日の間隔で2回皮下に注射する。

3才未満の者にっ、ては、0.5mlを7-14日間の間隔で2回皮下に注射する。

追加免疫---3才以上の者にっ、ては通常1mlを皮下に1回注射する。

3才未満の者にっ、ては、0.5mlを皮下に1回注射する。

(4) 医療機関への委託、時内外(土曜、日曜、夜間)接種等の措置により、接種浅い者等に對し、接種機会を与えるよう体制を整備すること。

5 広報紀生教育活動の徹底

あらゆる機会を通じ、予防接種の勧奨と  
 日中脳炎の予防方法並びに日中脳炎の  
 正しい知識の普及に努めること。

⑤ 国保レセプトの受付

日時 昭和47年6月10日

午前9:30. 午後3時まで

場所 下松市市民会館

⑥ 日同好会

1. ボーリング同好会

とき 5月18日

ところ 光ボール

HDP	PLAYERS	1	2	3	G-TOTAL	RANK
30	河村	130	179	161	500	優勝
0	毫田	176	125	181	482	2位
30	竹中	104	139	145	418	B.B.
60	大野	90	117	96	363	6位
30	河内山	124	145	160	459	3位
60	松村	93	145	127	425	4位

## 科学 8. 微量物質の分析 (その1.)

## ガスクロマトグラフ

さかなから3 ppmのPCBが見つかつた—最近の新聞には毎日のようにppm(100万分の1)とかガンマ(100万分の1グラム)といつたことばがさかんに使われてゐる。このようにごく微量物質はどのようにして測定されるのか。これを可能にした陰には分析機器のめざましい発展がある。PCBをどの分析に威力を發揮してゐるガスクロマトグラフについて考えてみよう。

PCBの発見： 10年位前から、世界各国で生物体中の残留DDTやBHCを分析してきた研究者が、ガスクロマトグラフの曲線の中にDDTに似てゐるがもっと複雑なカーブを描く物質があることに気がついたので、これはDDT類似物質として、じやまものあつかひにされてゐた。スウェーデンのジエンセ博士がこれがPCBであることをつきとめて1966年に報告した。その後世界各地でPCB、

汚染が検出された問題にさしてきた。日中も  
一昨秋より分析に手がつけられ汚染の重大  
さが警告されるようになった。(つづく)

### 医学 9. 学 会 (6月)

- 6月14日 山口県医学会 山口県医師会館
- 6月1日 門脈外科研究会 岡山市・岡山紅生  
会館三木記念ホール
- 6月1日 肝癌研究会 岡山市・岡山紅生  
会館三木記念ホール
- 6月1-3日 日中小児外科学会総会 名古屋市  
公会堂
- 6月2-3日 日本肝臓学会総会(第8回) 岡山市  
岡山市民会館、岡山県医師会館
- 6月2日 日中医学会シンポジウム(第25回)  
東京・平河町：全共連ビル
- 6月8-10日 日本化学療法学会総会(第20回)  
大阪市：大阪府青少年会館
- 6月24-25日 西日本整形外科災害外科学会  
宇治市：宇治市市民会館

電解質代謝における最近の進歩といえは、まず大きく分けて3つくらいであろう。しかし何といっても第1にあげられる第三因子 (third factor) がその中心をなすことについては異論はあるまい。生理食塩水を負荷したさいに、尿中にナトリウムの排泄が増加する機序として、糸球体濾過値、アルドステロンにつづいて第3番目に考えられるという意味でとりあげられたものであるが、その本態についての研究が進歩の中心であろう。物理的因子として説明できるという一派と、物質的基礎があると主張する一派とあることは周知のとおりであるが、後者が今や主流となりつつあるようで、ナトリウム排泄因子としてとりあげられつつある。

しかし何といっても、物質の分離同定が行なわれないうちに生理作用のみが論ぜられているというのは、変則といわざるを得ない。一日も早くこの物質が同定されることを望みたい。それにしても、この状態は、かつて浮腫性疾患患者尿中に抗利尿、ナトリウム貯留因子が存在するという事実が多くの人にわかっていながら、アルドステロン (当時はまた electrocortin) として抽出されるまでにはかなりの時間がかかったのとよく似ているようである。

本特集は「むくみ」であるが、浮腫発生と第三因子の関係はもちろん重要であり、すでにうっ血性心不全で本因子の低下が証明されているようであるが、筆者自身は、このことが浮腫のさいのナトリウム貯留の本態だということにはかなり問題があるように思っている。それは、生理的狀態でのナトリウム代謝における第三因子の役割にも関係してくることであり、昨年行なわれた第三因子についての国際シンポジウムのデータからみても、生理的・生物学的意義はきわめてわかりにくいことである。

第2のポイントは、アルドステロンを介してのナトリウム代謝についてのもので、これに関連してレニンアンジオテンシン系が、アルドステロンを介してのほかに、直接にナトリウム代謝に影響を与えているかどうかについての問題がある。後の作用も実験的にはたしかに存在しているらしいが、その生理的意義はやはり不明といわざるを得ない。

第3は、膜機構とナトリウムの関係であり、Na-K-ATP ase についてのものがある。本酵素は名のみ有名で本態のはっきりしないという汚名をうけてからすでに長い。しかし筆者は、生化学と生理作用の媒体をなすものとして大いに期待されていいと思うので、従来の生化学の概念のみでは割りきれないのも当然といいたい。さらに cyclic AMP の胃や腸管における作用もこの点できわめて示唆に富むものといえよう。腎での濃縮機構というマクロの現象と Na-K-ATP ase や cyclic AMP との結びつきがこれからの問題となるであろう。

随筆 生れる方が先か T.T.生

京城附近は3月卯のに鳥と冬に同感になる。  
 地表から40cm位カチカチに凍結していた道路も  
 2-3日暖かい日が続くと、蒸しパンの様にフワッと  
 膨らむ。田舎道は牛車とトラクタも通れなくなる。  
 京城の南方、古部水原のあたりで九電工事区に赴任した  
 のがT君。春3月のおゆである。約6kmの道を半日かか  
 りて漸く現場に到着。医務室が出来上りたては  
 民衆を招いたの假座。工事が本格的に始まるまで  
 の1-2ヶ月は寂しである。此処では外傷患者と可憐な  
 おつねが冬に冬で下死症と髄膜炎が流行した。  
 下死症の患者が發生すると一番先に駐在所が  
 白煙を上げ、往診を頼みに来る。マスをかき診察衣  
 に長靴を履いて行く。患者に着くと戸を固けさせ  
 外から診うだけ。石炭をこき帰す。あとは自然  
 治癒を待つばかり。5-60人位発生して半品近に死  
 した。この年は流行がひどくて、痘菌の向に食水  
 まで、予防注射の増やして、此行の収めやじつと  
 多いほどとT君の報告で、数人の院室が臨時に  
 充てられた。どうしてならぬ急務会帯と変更して幸い  
 治癒せられた。予防注射の済んだあとは何か  
 種と備の医学会があれ祝平の宴会が流く。  
 髄膜炎の方は見られたけりたに治療した。  
 養生局のたかいたは、屋外に五門風呂と浴場を築く



光 風

医師会報編集委員の構成もさまたち。予書さ  
 会報の発行もついに No. 14. 編者の無能も予  
 伝って、これが予書さの限界。編集委員の衆知  
 と結果して一日も早く活字印刷の発行に充実  
 躍進を期待する。

三春の行樂桜葉となりぬ 虚子